

災害支援ナース活動報告書

報告者：相場由美子

所属施設：燕労災病院

報告月日：令和 6年 1月 31日

活動日	1月 15日 (月) ～ 1月 18日 (木)
活動場所	施設名 珠洲市正院小学校
活動内容	<p>発災より2週間経過した時点で正院小学校の避難所へと派遣が決定した。</p> <p>活動1日目は、金沢より約5時間かけて珠洲市の避難所に移動する。到着後に先発隊から申し送りを受ける。巡回診療日であり、状態変化がある避難者4名の診療補助をおこなった。そのうち1名が発熱、足背部の腫脹、熱感、疼痛があり診察。蜂窩織炎の診断で継続した治療が必要となり総合病院へ救急搬送となる。その避難者や家族の精神的ケアをおこなった。</p> <p>活動2日目の早朝より下痢症状を訴える避難者が数名いた。状態把握のため、避難者全員の健康チェックを実施する。下痢症状を訴える方は7名となり、感染性胃腸炎やノロウイルスの可能性を考慮して、手指消毒の指導や消毒剤の設置場所の確認をして、段ボールによるパーティション設置をおこなった。また、次亜塩素酸でのトイレ清掃、ドアノブや手すりの消毒を実施した。</p> <p>活動3日目は、下痢症状のある方は症状の改善が徐々にみられていた。また他の方への症状拡大はないと健康チェックで確認した。ミーティングをおこない、次亜塩素酸での消毒、清掃はナースが継続しておこなうこととなり実施を継続する。居住環境に対しては、防災士と協力しながら窓に断熱シートを貼った。またパーティションテントや段ボールベッドの支援物資が届いていたため、設置をした。また、テーブルがなく食器を床に置いて食事していたため、物資置きに使用していたテーブルを活用して食事スペースの確保をおこなった。</p> <p>活動4日目は、前日同様に居住環境の整備としてパーティションテントや段ボールベッドの設置を防災士と避難者と共に協力しておこなった。また、後発隊への情報共有のため避難者の情報を書いた用紙を保健師と協力しながら作成した。後発隊の到着があり、活動終了とした。</p>
所感	<p>発災より2週間経過しており、感染症出現の可能性を考慮して避難所に向かった。避難所ではCOVID-19陽性の方や下痢症状の出現がみられた。拡大を防止するため、部屋やパーティションによるゾーニング、手指消毒の指導、次亜塩素酸を用いて消毒を実施する。日々の業務の中での知識を活用して衛生環境の整備をおこなうことができたと考える。また、居住環境については、プライバシーの保護や感染面、健康面などを考慮してパーティションテントや段ボールベッドを設置したり、食事スペースの確保としてテーブル設置をしたりした。生活環境を整えることは最も大切なことであり、精神的な安定にもつながることだと考えさせられた。日々の業務での知識や技術の経験が支援活動に繋げられることだと改めて感じる事ができた。</p>